

京都府立植物園 100 周年未来構想委員会（第 3 回）概要

日時：平成 30 年 12 月 25 日(火曜日)

午前 10 から正午まで

場所：植物園会館 多目的室

【出席委員】秋元委員、金田委員、下村委員、谷口委員、築山委員、並木委員、野中委員、福村委員、藤本委員

【事務局】田中副部長、嶋津課長、川崎担当課長、戸部園長、西原副園長、岡垣課長、齊藤課長

1. 議題

- (1) 京都府立植物園 100 周年未来構想(仮称)（中間案）について
- (2) 植物園及び北山文化環境ゾーンの現地調査及び意見交換

2. 主な意見

- 京都府のレッドデータブックに掲載されている絶滅種、絶滅寸前種、絶滅危惧種、準絶滅危惧種について、非常に地味な植物ではあるが協力しながら守っていかなければいけない。
- 有料ゾーンと無料ゾーンの設置について、無料ゾーンを広げる事が集客に繋がるという意見がある。ショップは完全に無料で入れる場所にしなければいけないと思う。無料ゾーンを広げるという意見をどこから読み取ったらいいのか。「来園者」はどこまで来園者と呼ぶか。無料ゾーンでも入園者カウントしていくのかなど整理が必要。
- 無料ゾーンの設定は、工夫次第ではかなり有効な発信の資材になると思う。
- 植物園のポスターや掲示物の統一感がない。もう少しビジュアル的にこだわった方が綺麗かと思う。
- 園の周辺や鬱蒼としたエリアを綺麗にするというのは、ワクワク感を出すということと相反するところで、非常に難しく工夫が必要。
- 写真スポットやインスタ映えするシーンなど眺望点をどう置くか、さらにどう伝えていくかという仕組みもきっちり検討が必要。
- 大学生に来てもらうための工夫があってもよい。
- ベンチの設置や記念植樹など、民間参加や資金活用の仕組みができるとうよい。
- 観覧温室の改修は、植物園の顔として現在の骨格を遺したリノベーションをするのがよい。
- 植物と動物の交換や相互利用など、植物園単独ではなく他の機関との交

流も話題性があるよ。

- 「新たな入園者の開拓」に関して、打って出るような形で、周辺の商業施設を活用したサイエンスカフェや市民講座などを開催し、入園者を呼び込むような事ができるとよい。
- 情報発信は非常に重要である。取組例として記載するのではなく、本文の中でしっかり取り組むということを記載した方がよい。
- 巡回トラムの検討は、研究が非常に速いスピードで進んでいる。「トラムの無人運転」というのも候補の中に挙げるとよい。
- 教育・学習の部分で大学との連携のほか、是非植物園間の交流、特に直営植物園との交流も含めていただきたい。絶滅危惧種の情報も共有でき、これが絶滅危惧の植物を守ることに繋がる。地域の植物は、その地域の気候にあった植物でないと育たない。
- 旧総合資料館跡地の活用で、標本館や交流センターなどを要望し、PFIのような形で整備すると、植物園外の人を中に誘い込める仕組みも可能ではないか。
- HP や発行物を含めた「情報発信」について、項目を検討した上で目立つ形で記載した方がよい。
- 台風の被害をマイナスと捉えるよりは、来園者の安全確保をした上で、次世代への再生・回復のプロセス、森が再生するプロセスとして来園者と長いスパンで共有するという示し方ができないか。この植物園は100年を経ているという事を示すよい機会になるのではないか。
- 植物だけではなく、植物と美術、植物と文学、そして植物と音楽などいろいろな分野と交叉する分野の展示が見られるような事があればよい。
- 有料・無料ゾーンの設定は、東側の景観整備やプロムナードでの回遊性にも関わる部分なので検討が必要。
- 無料ゾーンの設定は警備・管理も含めて検討しないと多くの問題が起る可能性が出てくる。
- 旧総合資料館跡地やプロムナードの整備、周辺施設との連携をどうしていくかの全体像が明確でないと植物園の施設整備や設備のトータルなデザインは定まらない。
- 北大路駅からの来園者にとって、これから植物園行くよってというワクワク感やイメージが沸いてこない。楽しい雰囲気を出せるよう街路樹の横には花を植えるような事ができないか。
- 森のカフェやミュージアムショップ、ガーデンショップ、トイレなどの設備を魅力あるものにしていただきたい。
- 無料ゾーンの設定は、入園者をどう扱うかというのが大きな問題ではないかと思う。職員の接し方や秩序の問題などから反対。